

北信

先方に思い伝わるよう、あんこぎっしり「お詫び最中」誠意ぎゅっと

信濃町古間の菓子店「菓子庵まつりや信濃町店」が「深く反省しております」などと皮の表面にプリントしたもなか「お詫び最中」を商品化し、じわり人気を広げている。原料の小豆が値上がりする中でも「事態を重く受け止めます」という気持ちを込めて、あんこはぎっしり。お詫びの際の定番商品に「と商魂たくましく売り込んでいる。

信濃町の菓子店商品化 人気じわり

同店は和菓子や洋菓子を幅 運営会社の関幸博社長が発案 広く製造し、同町出身の俳人 し、昨夏に販売を始めた。

小林一茶(1763〜1827年)の俳句をプリントした

もなかは1辺5センチの正方形

で「この度は誠に申し訳ございません」改善に全力で取り

組みます」などとプリントし

お詫び最中は「謝罪に持って 行ける自社製品を作ろう」と

十数種類を用意した。1個



謝罪や反省の言葉をプリントした「お詫び最中」



あんこがぎっしり詰まっている

80グラムで重量感を演出。あんこは小豆本来の風味と食感が出るよう試作を重ねた。「先方に誠意が伝わりますように」との思いを込め、手作業であんこを詰めているという。

週末を中心に「何だろう」「面白いね」と興味を持った家族連れや若者、観光客らが買い求める。一方、取引先への謝罪に持参するためか、焦った様子や沈痛な面持ちで購入する人もいるという。

西堀文字子店長(64)は「いろいろな場面で使ってほしい。信濃町に訪れた人に面白いもなかをおいしく味わってもらいたい」としている。

1個300円。信濃町店の他、長野駅前店(長野市)、レストラン「みるまーま」(同)でも取り扱う。問い合わせは信濃町店(☎026・255・2115)へ。